
しっぽ

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しつぽ

【Zコード】

Z56441

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

小野京香はセミロングの亞麻色の髪を揺らしながら、ひざ丈のブーツで颯爽と歩いていた。

京香は歩きながら、今日はインナー買ひそと決意していた。

小野京香はセミロングの亞麻色の髪を揺らしながら、ひざ丈のブーツで颯爽と歩いていた。

京香は歩きながら、今日はインナー買ひと決意していた。

その決意には理由があった。

昨年も一昨年もアウターを買ひてしまつて、結局アウターばかりになつてしまつている。

そして、タンスの肥やしに・・・

この季節あれやこれやと皿を引くものが多すぎるのだと京香は一人憤慨する。

流行などに乗つていては毎年買わなくてはいけなくなつて、懐がさみしくなるばかりである。

とは言つもののかわいいものはかわいいのである。意識せずとも目がいくものである。

昨年も白い秋冬用のコートを買つた後に「のままじゃいけない」、もつと意志を強く持たなきやと誓つたことを京香は忘れない。

そして、いざ戦場へ。

京香は行きつけの店へと入つた。

「いらっしゃいませー」

愛想良く笑顔で挨拶してくる店員。

しかし、目を合わせてはいけない。

奴らは肉食動物のようなもので、こちらは草食動物である。

こちらの手のうちを熟知していて、確実にその息の根を止めに來るのである。

京香は迷わずTシャツの方へと向かう。

そして、迷わずさつと取りレジへ行くのである。

「あつ・・・」

京香は思わず不用意な一言を口にしていた。

手にしたTシャツの隣に色違이があつた。

手にしている青系統のものよりも普段はピンク系統の服を着る」とが多い。

今着ているグラウスもピンクだし・・・

と京香が考え込んでいると

「どうされました？お客様

と店員が寄ってきた。

しまつた、血の臭いに誘われたかと京香は心の中で舌打ちした。

「いえ、何でもないです」

と田をそらす京香。

しかし、その先には京香好みのジャケットが！

思わず田を奪われてしまつ京香。

そして、その瞬間を逃しはしない店員。

「やつぱり気になります。あのジャケット。あれ一点ものなんです

よ。よかつたら試着されますか？お客様」

激しい店員との攻防の末、

「ありがとうございましたー」

京香は一万五千円のジャケットと一千円のTシャツを買つた。

初めての目的のインナーはちゃんと買つたのだと京香は自分を慰める。

とぼとぼと歩いていると声をかけられた。

「ちょっと、お譲ちゃん」

それは天然パーマでビニールで売つてゐるのか聞きたくなるよつた肉で
のばされた深い赤紫色のシャツを着たおばちゃん。

おばちゃんは京香にずいすいと迫り、京香はその迫力に後ずさりしてしまつ。

そして、おばちゃんは京香の耳元で、

「スカートのチャック開いてる」

おばちゃんのひそひそ声風のよく通るその声に京香は慌てふためいた。

見ると右後ろのスカートのファスナーが開いて、ピンクのグラウス

がぴょこんと尻尾のよに飛び出していた。

おばけちゃんはにやりと笑つて氣をつけなぞこと言つて去つていった。

た。

何時から開いていたのだろう、京香は考へる。

試着した時には上しか着替えていない。

もしかしたら家を出るときから・・・

そう思つと京香の手にしている紙袋の重みが一段と増すのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5644i/>

しっぽ

2010年10月15日22時32分発行